

花火大会検証会議 報告書

令和 7 年 12 月

目 次

はじめに	1
委員名簿等	2
1 検証会議の開催等経過	3
2 議論の経過	5
3 提案内容	21
おわりに	24

は じ め に

福知山市は、令和 6 年度に設置した「花火大会検証会議」から提出された報告書を受けて、「花火大会に関する市の考え方」（以下、「市の考え方」という。）を令和 7 年 2 月に発表した。

その後、福知山 HANABI2024 を主催した実行委員会から、令和 7 年の夏に昨年よりも規模を拡大して開催する花火大会について、市に後援申請があり、市は「市の考え方」に示す要件を満たすことができると認められ、安全対策について関係機関との協議が概ね整ったことから、令和 7 年 5 月に後援承認を行った。承認後、市は「市の考え方」に基づき、「実行委員会の会議に出席し、助言・指導を行う」、「警察署や消防署等の各関係機関との事故防止対策等にかかる事前協議に出席し、必要な調整を行う」、「市民に対して、花火大会の事故防止対策への協力を呼びかける」などの対応を行い、安全対策に関与した。

花火大会終了後、花火大会の運営や事故防止対策の検証を行うとともに、経済波及効果の分析に関する事項等について協議を行い、その結果を市長に報告するための機関として、花火大会検証会議（以下、「検証会議」という。）が、市により令和 7 年 6 月に設置された。

「検証会議」を構成する委員は、雑踏警備等の安全対策や実施団体の責任体制等の専門知識を有する者をはじめ、法律の専門家、地域振興等に取り組む団体の代表者のほか、市民公募委員 1 名を加えた合計 8 名である。

「福知山 HANABI2025」（以下、「花火大会」という。）は、昨年よりも打ち揚げ時間や打ち揚げ発数、有料観覧席等を拡大したものであったが、安心安全に開催できていたのかを検証するため、検証会議では花火大会当日に会場周辺において現地検証を実施するとともに、実行委員会や露店出店者に対して確認事項の照会を行った。その回答内容や実行委員会から提出された事業報告書等を踏まえ、花火大会の運営や事故防止対策等が十分に機能していたか、改善すべき点はないかなどについて協議を行った。さらに、仮に今後も花火大会が開催されるとした場合、市の関わり方や検証会議のあり方などを含めて、どのような形であるべきかという点についても協議を行った。

その結果をとりまとめ、本報告書のとおり報告する。

※「検証会議」で検証を行った「花火大会」とは、次の花火大会を指すものである。

□行催事名：福知山 HANABI2025

□開催日時：令和 7 年 8 月 11 日（月・祝）

□開催場所：由良川（音無瀬橋）河畔

□主 催 者：福知山 HANABI 実行委員会

令和 7 年 12 月 26 日

花火大会検証会議

[委員名簿]

会 長	浦中	千佳央	[京都産業大学法学部教授（社会安全・警察学研究所所員）]
副会長	田中	茂	[弁護士 田中茂法律事務所]
委 員	水口	学	[福知山公立大学特任教授（地域防災研究センター長）]
委 員	足立	喜代美	[福知山市子ども・子育て会議委員]
委 員	谷垣	均	[福知山市自治会長運営委員連絡協議会会長]
委 員	樋口	真一	[福知山市商工会副会長]
委 員	横田	将吾	[一般社団法人福知山青年会議所直前理事長]
委 員	衣川	直宙	[市民公募委員]

[事務局]

福知山市産業部商業観光課

1 検証会議の開催等経過

(1) 会議

第1回花火大会検証会議

日時：令和7年7月18日 13時30分～15時00分

場所：福知山市防災センター

主たる議題：検証会議の進め方等について

第2回花火大会検証会議

日時：令和7年8月11日 17時30分～21時30分

場所：福知山市厚生会館、花火大会会場周辺

主たる内容：現地検証

第3回花火大会検証会議

日時：令和7年8月29日 13時30分～16時00分

場所：福知山市防災センター

主たる議題：現地検証結果の協議

第4回花火大会検証会議

日時：令和7年11月5日 13時30分～16時00分

場所：福知山市総合福祉会館

主たる議題：現地検証結果の協議の集約、経済波及効果分析の報告

第5回花火大会検証会議

日時：令和7年11月19日 13時30分～15時30分

場所：福知山市防災センター

主たる議題：今後の花火大会のあり方についての議論

第6回花火大会検証会議

日時：令和7年12月3日 14時30分～15時30分

場所：福知山市防災センター

主たる議題：報告書（案）のとりまとめ

(2) 会議以外の内容

①市民公募委員の募集

募集期間：令和7年7月22日～8月1日

②現地検証

実施日：令和7年8月11日

実施場所：福知山 HANABI2025 会場周辺

③経済波及効果分析

実施目的：アンケートと産業連関分析を通じて、花火大会の開催が地域経済等に与える経済波及効果を定量的に把握する。

分析機関：株式会社京都総研コンサルティング

④実行委員会への確認事項の照会

対象者：福知山 HANABI 実行委員会

確認事項：6項目

⑤関係機関への確認事項の照会

対象者：露店出店者

確認事項：1項目

2 議論の経過

- (1) 花火大会が安心安全に開催できていたのかを検証するため、実行委員会が策定した実施計画書を踏まえてチェックシートを作成し、花火大会当日に現地検証を行った。

【現地検証方法】

①実施日

令和7年8月11日

②実施場所

福知山 HANABI2025 会場周辺

③チェック箇所

ア：各ゲート

イ：堤防天端

ウ：広小路通り・城下通り

エ：露店（御霊公園）

オ：露店（第2会場）

カ：有料観覧席

④評価方法

チェック箇所ごとに設定した項目について3段階で評価

⑤評価基準

A：推 奨（問題なくできている）

B：標 準（可もなく不可もなく標準的にできている）

C：要改善（改善しなければ大きな問題になる可能性がある）

- (2) 現地検証を踏まえて、実行委員会や関係機関に対して確認すべき事項があると判断し、それぞれに照会を行った。

① 実行委員会への確認事項

確認事項	花火の打ち揚げ数が前年の倍となったことに伴い、打ち揚げ時間が33分となった。何か顕著な変化はあったか。
回答	○来場者の満足度が上がった。昨年より迫力のある花火を長く楽しめたことについて好意的なご意見を多く頂戴した。

確認事項	打ち揚げ直前に大雨となった降雨の影響はあったか。
回答	○花火の打ち揚げ自体に影響はなかった。ただし、観覧席エリアへの入場者が、雨が止んだ後の打ち揚げ30分前に集中したため、GATE2で混雑が発生した。そのため、開始時刻を20時から20時13分に遅らせることとした。

確認事項	亀岡・保津川花火大会が中止となった、人の流れに変化はあったか。
回答	○人の流れに変化は感じなかった。昨年より来場者が増加したが、そのうちの何人が保津川花火大会の中止を理由に福知山 HANABI 2025 に来場した人なのかはわからない。

確認事項	花火大会での暴発や火災事故が続く中、関係機関とどのような協議がなされ、どのような対策を講じたのか。
回答	○各地での花火大会での事故を踏まえ、8/5 に消防と安全性について情報交換を行った。また、同日に警察署にて警察、花火師、実行委員会が出席し、緊急安全対策会議を開催した。警備計画の再確認と取り得る対策について検討し、その内容を後日消防に共有を行った。花火打ち揚げ筒の固定方法をさらに強化するため、鉄管を組み上げて花火筒を固定する際、通常よりも鉄管の本数を増やした。また、ロープもしっかり固定するなどの改善を行った。コントロールセンターの場所を現地消防本部のすぐ横に変更した。

確認事項	由良川の水位が下がっていると聞いたが、普段より増水しており流速もあったと思われた。関係機関と何か協議を行ったのか。
回答	○10 時、11 時、15 時時点の福知山観測所の水位は以下のとおりであった。 10 時：-1.07m、11 時：-0.70m、15 時：-0.27m ○10 時、11 時、15 時に大野ダムと直接電話で協議した。15 時以降はダムの放流による水位上昇の可能性はほとんどないとの情報を得た。あわせて、福知山市から 14 時時点の気象台の情報として、18 時には大雨注意報が解除される見込みであるとの情報提供があった。 ○15 時以降の水位は以下のとおりであった。 17 時：-0.39m、18 時：-0.52m、19 時：-0.65m、 20 時：-0.74m、21 時：-0.79m

確認事項	気象台の予測では 18 時頃に大雨注意報が解除されるとのことであったが、結果は花火大会中も解除されなかった。このことについて、どの時点で関係者と協議し、開催することとなった経緯を教えてほしい。
回答	○前日には、警報がでた場合は中止をすることを警察と確認していた。 ○当日の 14 時時点で気象台の情報では、18 時には大雨注意報が解除される見込みとのことであったため、事前に定めていた実施計画に基づき、15 時に実行委員会の判断で開催を決定した。

② 関係機関への確認事項

確認事項	露店の配置方法はどうだったか。
関係機関	露店出店者
回答	○御霊公園 ・ 昨年は公園の中央部分に集中的に配置されていたが、今年は公園の両端に配置されていたため、配置方法が昨年から改善され良くなった。 ・ 昨年はどの列にどのように並べばいいか分かりづらかったが、今年は配置方法が改善され、来場者はどの列に並べばよいか分かりやすかったと思う。 ・ 雑踏という観点でも問題なかった。 ・ 危険な箇所はなかったと思う。 ○城下通り ・ スペース（約 80 m ² ）に対して 5 店舗は妥当で丁度よいと思う。 ・ 来場者は並びづらそうだったが問題はなかったと思う。 ・ 並ぶ列をコーンやチェーンで整理したほうがよかった。 ・ 危険な箇所はなかったと思う。

（３）花火大会が「市の考え方」に示す条件を満たしていたかを確認した。

市は「市の考え方」に示す要件を満たすことができると認められ、安全対策について関係機関との協議が概ね整ったことから、実行委員会に対して、令和 7 年 5 月に後援承認を行った。承認後、市は「市の考え方」に示している「実行委員会の会議に出席し、助言・指導を行う」、「警察署や消防署等の各関係機関との事故防止対策等にかかる事前協議に出席し、必要な調整を行う」、「市民に対して、花火大会の事故防止対策への協力を呼びかける」などの対応を行い、安全対策に関与した。

検証会議では、花火大会が当初の実施計画から逸脱していたことはなかったか、また、「市の考え方」で示している要件等をしっかりと履行していたか否かを検証し、次のとおり判断した。

項目①	市の関与のあり方について
主な条件	◆警察署や消防署等の各関係機関との事故防止対策等にかかる事前協議に出席し、必要な調整を行う。 ◆市民に対して、花火大会の事故防止対策への協力を呼びかける。
検証会議の判断	◆市は実行委員会に対して後援を承認した後、警備体制にかかる実行委員会の会議や警察・消防等関係機関との交通規制等にかかる会議への出席、現場立ち合いへの同行など、必要な関与を行った。 ◆全自治会に対して、注意事項等を掲載した案内文を組回覧にて配布した。

項目②	主催者について
主な条件	万が一、事故があった場合に備えて、被害者対応のため、対人 1 名 1 億円以上の保険に加入していること。
検証会議の判断	実行委員会は万が一事故等が起きた場合に備えて、対人 1 名 1 億円の賠償責任保険等の保険に加入した。

項目③	花火大会の規模等について
主な条件	花火大会の規模については、平成 25 年のドッコイセ福知山花火大会と同程度（打ち揚げ発数 6,000 発）まで規模を拡大するのではなく、段階的に拡大することを条件とする。具体的な発数、時間については、検証会議が挙げた課題のほか、実行委員会の事業報告書や来場者アンケートから明らかになった課題を検証し、本市を含めた各関係機関と十分な協議・調整を行い決定するものとする。
検証会議の判断	打ち揚げ発数は 4,000 発、打ち揚げ時間は 33 分間であり、平成 25 年のドッコイセ福知山花火大会を上回らない規模であった。 また、昨年度の検証会議において指摘した広小路通りの交差点付近の雑踏については、城下通りの片側車線を観覧者用に開放することで対策を講じた。打ち揚げ発数、時間については、警察等の関係機関と協議・調整を行い、決定した。

項目④	安全確保対策について
主な条件	◆露店対策 露店を出店させる場合は、安全対策や雑踏対策を徹底したうえで、混雑解消のため必要な対策を講じること。 ◆有料観覧席対策 来場者アンケートで有料観覧席について改善を求める意見があったことから、その内容を十分検証し、必要な対策を行うこと。 ◆雑踏対策 事前に危険個所の点検を行い、重点的に安全対策を講じること。 ◆交通対策 警察署等の各関係機関と事前に協議を行い、交通混雑を抑制するために必要な道路使用許可等を受け、対策を講じること。 ◆救護対策 警備計画のほか、救護ブースに看護師等を配置するなど、万が一の事故等に備えること。 ◆火災対策 消防署等の各関係機関に必要な届出を行うほか、事前に協議を行い、指導を踏まえて、火災対策として必要な対策を講じること。 ◆自然災害等の対策 国土交通省等の各関係機関と事前に協議を行い、指導を踏まえて、降雨や増水、強風時などの中止等を判断する基準を予め決めておき、誰が、どのように対応を判断するかを明確にすること。そして、その他突発的な災害が発生することも想定して対策を講じること。
検証会議の判断	実行委員会は各対策について、主に次の対策を講じた。 ◆露店対策 昨年は御霊公園の露店数が15店舗だったこともあり混雑が発生したこと、また公園の中央に露店を配置したことで、どの行列がどの店舗の列であるかが分かりにくい状況であったことを踏まえて、露店の出店数を増やすとともに、配置方法を見直したほか、出店者に消防署主催の屋外イベント等防火安全講習の受講を義務付けるなど、安全対策を講じた。 ◆有料観覧席対策 ゲート1が有料観覧席から遠かったとの意見を受けて、警察署と協議を行ったうえで、有料観覧席の近くに新たにゲート1-北を設置した。また、有料観覧席の増加にあわせてトイレの設置数を増やすなどの対策を講じた。

	◆雑踏対策 昨年度の検証会議において指摘した広小路通りの交差点付近の雑踏については、城下通りの片側車線を観覧者用に開放することで雑踏を解消するための対策を講じた。
	◆交通対策 警察署等の各関係機関と事前に協議を行い、交通混雑を抑制するために必要な道路使用許可等を受け、通行規制を行い、マイカーでの来場を避けるよう呼びかけた。また去年は有料観覧者専用だった駐車場を有料観覧者以外も対象とするなど、必要な対策を講じた。
	◆救護対策 救護ブースに医師、看護師等を配置するなど、万が一の事故等に備えた。
	◆火災対策 消防署等の各関係機関に必要な届出を行ったほか、事前に協議を行い、打ち揚げ現場での草刈りや散水のほか、コントロールセンターを現地消防本部のすぐ横に変更するなど、必要な対策を講じた。また、花火大会直前に発生した全国での花火大会の事故を受けて、警察署、花火師、実行委員会による緊急安全対策会議を開催し、警備計画の再確認と取り得る対策を講じた。
	◆自然災害等の対策 国土交通省等の各関係機関と事前に協議を行い、指導を踏まえて、降雨や増水、強風時などの中止等を判断する基準を予め決めていた。しかし、今回は降雨の影響があったため、突発事象への対応マニュアルを今後整備する必要がある。

(4) 実行委員会への確認事項の照会とあわせ、花火大会の開催結果報告を書面にて受けた。

①来場者数

20,000 人 (延べ人数)

<内訳>

有料観覧席	5,000 人
露店 (御霊公園、第 2 会場)	4,500 人
広小路通り周辺	4,500 人
城下通り周辺	3,000 人
その他	3,000 人

②臨時駐車場の利用台数

325 台

③チケットの販売数（販売率）

シート：534/558（95.7%）

階段席：1078/1130（95.4%）

④露店

営業時間：14 時 00 分～20 時 00 分

ブース数：35 ブース（26 店舗）

総売り上げ：約 579 万円

1 店舗平均：約 22 万円

⑤アンケート

回答数：142

（5）アンケートと産業連関分析を通じて、花火大会の開催が地域経済等に与える経済波及効果を定量的に把握することを目的に、経済波及効果分析を実施した。

① 観覧者数の推計

福知山市内 約 63%（約 12,500 人）

福知山市外 約 37%（約 7,500 人）

② 経済波及効果の推計

ア 観覧者の経済波及効果の推計

5,920 万円

イ 実行委員会の支出による経済波及効果の推計

4,930 万円

ウ 花火大会の経済波及効果の推計

10,850 万円（ア＋イ）

実行委員会と共同で実施したアンケートに基づいて、専門機関が分析した結果、花火大会の経済波及効果は 10,850 万円であった。昨年の経済波及効果は 4,860 万円であり、今年は約 2.2 倍となり、地域への経済波及効果は大きかったと推測する。

※経済波及効果分析の詳細については、参考資料を参照

- (6) 現地検証、実行委員会等への確認事項の照会結果などを踏まえて、花火大会が安心安全に開催できていたのか、という点について議論を行い、次の結論を得た。

結論：昨年よりも規模を拡大し、降雨等の影響で開始時間が遅れたが、事故や大きな混乱もなく花火大会が終了したことは評価できる。ただし、気象条件の変化等の突発事象への対策など、改善を要する点もある。

上記のように判断した理由

- 1 露店に起因する事故、雑踏事故、緊急事態発生など、大きな混乱がなく花火大会が終了したこと。ただし、打ち揚げ前から降っていた雨が打ち揚げ直前にあがり、チケット所有者が入場ゲートに来る時間が集中したため、入場に時間がかかった。その結果、打ち揚げ開始時間が13分遅れるなど降雨の影響があった。
- 2 以下の現地検証結果において、「C」評価（要改善）が指摘された箇所があること。「B」評価（標準）であってもいくつかの要改善点が指摘されていること。
- 3 実行委員会のスタッフから、入場ゲートにゲート番号と最後尾と書かれた看板があるとよいなどの改善点の提案があること。また、近隣の商業施設から花火大会開催に対して、駐車場やトイレの確保などに関する要望があること。
- 4 来場者アンケートにおいて、好意的な意見が多く、花火大会観覧者が評価していること。ただし、入場ゲートの分かりやすい表示や露店の営業時間延長など、改善を求める意見があること。
- 5 降雨を含む様々な気象条件の変化等の突発事象に対応する体制を関係機関の協力を得て構築する必要があること。

花火大会当日、全委員が出席して現地にて検証を行った。チェック箇所は、各ゲート、堤防天端、広小路通り・城下通り、露店（御霊公園）、露店（第2会場）、有料観覧席の6箇所。チェック箇所ごとに設定した項目について、「A（推奨）・B（標準）・C（要改善）」の3段階で評価し、議論を行ったうえで、最終的な全体の評価付けを行った。結果は次のとおり。

【現地検証結果】

チェック箇所	各ゲート
全体評価	A（推奨）
総評	有料観覧席の近くにゲート 1-北を追加したことで来場者が分散した点、由良川の増水に伴い河川に近寄らないでくださいとアナウンスがあり、その場の状況に応じた放送を行っていた点は評価する。また、昨年、ゲート 1、4 では音量が小さくアナウンスが聞こえにくかったとの指摘があった点は改善されていた。 しかし、ゲートにどのように並べばいいのか観覧者が戸惑っている様子が見受けられたほか、降雨の影響によりチケットの確認に時間を要し、長蛇の列が発生していたことから、スタッフの増員など、スムーズな入場方法を検討することを求める。
個別意見	◆良かった点として、主に ・天候により予定どおりではないアナウンスを求められる場面で、時間よりも安全面を大切にされたアナウンスをされていた ・混雑を回避するためにゲートが追加され、来場者が分散し良かった ・スタッフの誘導は適切であった。再入場の方もいたが、チケット所有者の目印であるリストバンドを確認し、適切に対応していた ◆悪かった点として、主に ・ゲート 1-南には、帰りの際に河川敷のルートに照明がなく、真っ暗で危険を感じた。また、ゲート 1-南付近にある堤防天端から城下通り方面に降りていく階段の足元が真っ暗で危険を感じた。封鎖するか照明をつけるかの対応が必要だと思う などの意見が出された。

チェック箇所	堤防天端
全体評価	C（要改善）
総評	危険な箇所はバリケードで封鎖するなど、事故が起きないように適切な対策を講じていた。チケット所有者以外の立ち入り制限については警備員から声かけが行われていたが、チケット所有者以外が堤防天端に入ってくる事象もあったこと、また昨年同様、花火に見入っているスタッフがいたことなどから、要改善の「C」評価とした。チケットのチェックポイントの強化、スタッフの増員など、どのような対策を講じることが効果的であるかを検討することを求める。

個別意見	◆良かった点として、主に ・堤防天端から河川敷に降りる階段をバリケードで封鎖していて、事故が起きないように適切な処置が施されていた ・警備員からの声かけ（チケット所有者以外の立ち入り不可）がなされていた ◆悪かった点として、主に ・チケットを持っていない方が堤防天端に入っていた ・花火が開始されるとスタッフが堤防天端の一番高いブロック上に座り込み、花火に見入っていた ・堤防天端の転落防止の規制テープは昨年より改善されて良かったが、チケットの確認場所付近や階段付近に転落防止柵が設置されていなかった。チケットを確認するスタッフも転落防止柵がない場所で作業をしていた などの意見が出された。
------	---

チェック箇所	広小路通り・城下通り
全体評価	B（標準）
総評	昨年度の検証会議において、広小路通りから堤防天端に向かう交差点付近はチケットを所有していない多数の観覧者であふれており、対策が必要であると指摘した点について、城下通りの片側車線を観覧者用に開放することで雑踏の解消を図ったことは評価する。 また、安心安全な花火大会の開催のために、緊急車両の走行ルートを確認するなど、緊急事態に備えることは主催者として当然のことであることから、引き続き対応を求める。
個別意見	◆良かった点として、主に ・昨年よりスムーズな人の流れだった ・今年は福知山踊りの披露もあったが、格段の混乱はなかった ◆悪かった点として、主に ・スムーズに人が流れすぎて、チケットの確認が徹底されていないように思われた ・広小路通りから城下通り露店エリアまでの間、照明が不十分と感じた。縁石が高く、つまづく可能性がある などの意見が出された。

チェック箇所	露店（御霊公園）
全体評価	C（要改善）
総評	昨年度の検証会議において、露店が出店していた御霊公園は、各店舗に長い列ができており、公園内は身動きがとれないほど多くの人が密集していたことから、店舗数を 15 店舗に限定したことが良かったのか、公園内中央に集中した露店の配置方法が良かったのかなど、露店については、実行委員会だけで決定するのではなく、露店出店者や関係機関とも事前に十分な調整を行うことを求めた。 今回、混雑解消を図るため、城下通りに第 2 会場を設けたほか、御霊公園の出店数を 30 店舗に拡大した。また、去年は公園の中央に露店を配置していたが、今年は公園の周囲にコの字型に配置したことで十分なスペースを確保していた。また、公園内の遊具の夜間利用による事故を防止する対策を講じていた。 しかし、店舗が多く配置されていた入口付近では、混雑が見受けられた。神社側にはスペースがあったことから、例えば入口付近ではなく神社側に多く配置するなど、混雑解消につながる配置方法を検討することを求める。
個別意見	◆良かった点として、主に ・御霊公園の周囲にコの字型に店舗を配置することで、列ができて歩行のスペースが十分に確保できており、適切だったと思う ・遊具にテープが巻かれ使用できない措置が取られていた ◆悪かった点として、主に ・御霊公園の入口付近に店舗が配置されたためスペースがなく、逆に御霊神社側にはスペースがあった ・雨のため、来場者は少ないと思われるが、入口付近に店舗が多く配置されていたため、混雑が見受けられた などの意見が出された。

チェック箇所	露店（第 2 会場）
全体評価	C（要改善）
総評	今回新たに城下通りに露店第 2 会場が設置されたことについては、御霊公園の混雑解消のためには一定効果があったと考える。露店出店者からはスペースに対して 5 店舗は妥当で丁度よいと思うとの回答があったが、降雨だったため、傘が隣の人目に当たると危ないと感じた。特に出入口付近に人が多く、改善の必要があると感じた。このスペースに 5 店舗は多かったとの印象を受ける。露店出店者からは並ぶ列をコーンやチェーンで整理したほうがよかったとの感想もあることから、次回以降、このスペースでの露店営業に

	については、出店数の見直しも含め、関係機関や露店出店者と協議を行い、慎重に判断する必要がある。
個別意見	◆良かった点として、主に ・露店も大勢のお客があった。御霊公園内の露店ほどの足下のぬかるみはなかった ◆悪かった点として、主に ・人が密集していた。傘が隣の人目に当たると危ないと感じた。特に出入口付近に人が多く、このスペースでの露店営業の見直しも含め、改善の必要があると感じた ・露店が密集していて、傘をさしながらすれ違うのが困難だった。このスペースで5店舗は多いと感じた。雨の場合は3店舗までが妥当のように思う。次回以降、このスペースでの露店営業については、出店数の見直しや悪天候を考慮した露店の配置を含め、関係機関や露店出店者と協議を行い、慎重に判断する必要があると思う ・20時を過ぎても営業していて、長蛇の列ができていた。さらには20時40分を過ぎた帰りの時間になっても販売をしていたなどの意見が出された。

チェック箇所	有料観覧席
全体評価	B（標準）
総評	降雨の影響もあり、昨年とは現場の状況が大きく異なっていたが、スタッフ同士で連絡を取り合い、観覧者を誘導できていた。トイレについては、設置数を増やし、足元に感知式の明かりを設置するなど昨年の問題点が改善されていた。 しかし、由良川の増水に伴う水難事故対策としてライフジャケットが用意されていなかったことについて委員から指摘があったように、万が一に備えて観覧者の安全を確保するためにあらゆることを想定した対策を検討することを求める。
個別意見	◆良かった点として、主に ・ゲートのスタッフ、観覧席に降りて観客を誘導するスタッフともに連絡を取り合い、混雑を防いでいた ・トイレの数は適切だったように思う。電気がついていなかった昨年の状態が改善され、足元に感知式の明かりが設置されていた ◆悪かった点として、主に ・20時になってもゲートの前には長蛇の列が並んでいた ・A～Rまでのエリアのアルファベットが書かれたパネルが暗くて見えにくかったので、光源を設置したほうがよいと思った

	・由良川の増水に伴う水難事故対策として救助用のライフジャケットが用意されていなかった などの意見が出された。
--	--

チェック箇所	その他
チェック項目	①スポンサー企業の弁当引き換え場所の混雑状況 ②当日気付いた点
総評	スポンサー企業の弁当引き換え場所については、昨年の1箇所から3箇所に変更したため、混乱はなかった。 事前に設定していたチェック項目以外に、当日委員が気付いた点としては、露店や観覧者の増加によるごみの散乱、路上での喫煙などが挙げられる。また、雨宿りができる場所を案内、提供すべきだったのではないかと意見もあったため、花火大会会場周辺の公共施設や民間施設等の開放を検討することが望ましい。
個別意見	◆良かった点として、主に ・スポンサー企業の弁当引き換え場所は、昨年のような行列は出来ていなかった ・激しい降雨に臨機応変に対応していた ◆悪かった点として、主に ・去年は「たばこ」については気にならなかったが、今年は、路上で喫煙をしている人が目についた。当日の雑踏の中では、路上での喫煙は危険であるため、対策が必要である ◆その他、所見として ・弁当の交換が帰りの時間にも行われていたので、交換時間を20時までに徹底するなどの対策が必要かもしれない ・昨年より露店で購入できる機会が増えたことにより、ゴミが散乱していた ・御霊公園内はぬかるんでおり、足元が悪かった。有料観覧席のシートに水溜りが生じていた。降雨が原因とはいえ、気の毒だった。雨宿りができる場所を案内、提供すべきだったのではないかなどの意見が出された。

※現地検証の詳細については、参考資料を参照

現地検証結果等のまとめ

各ゲートは「A」評価、広小路通り・城下通り、有料観覧席は「B」評価、堤防天端、露店（御霊公園）、露店（第2会場）は「C」評価という結果になった。

昨年の課題を受けて、関係機関と十分な協議や調整を行ったうえで、城下通りの片側車線を観覧者用に開放し、広小路通りの雑踏の解消を図ったほか、ゲート1-北、南を設置して、観覧者の分散を促し、安心安全な花火大会の運営のために各対策を講じたことは評価する。今後の花火大会においても、安心安全の確保を最優先とした対策の検討及び実行を強く求める。

「A」評価を付けた各ゲートについては、直前の降雨により、観覧者の入場のタイミングが重なりゲートに集中したため、臨機応変な対応が求められる状況であったが、適切なアナウンスにより大きな混乱が生じることはなかった。しかし、降雨の影響によりチケットの確認に時間を要し、長蛇の列が発生していたことから、スムーズな入場方法を検討することを求める。

「B」評価を付けた広小路通り・城下通り、有料観覧席については、昨年の課題を受けて、雑踏対策や有料観覧席の安全対策を講じたことは評価する一方で、降雨などの様々なシチュエーションを想定した対策が求められる。

「C」評価を付けた堤防天端については、チケットを持っていない方が堤防天端に入ってきていたこと、昨年同様花火が開始されるとスタッフが堤防天端の一番高いブロック上に座り込み、花火に見入っていたことから、チケットのチェックポイントの強化やスタッフの増員などを、また、露店については、混雑解消につながる御霊公園での配置方法の再検討を、第2会場での営業については、出店数の見直しを含め、関係機関や露店出店者と協議を行い、慎重に判断することを求める。「市の考え方」においては、雑踏対策のため、露店の営業時間と花火打ち揚げ時間を分離させることとあるが、打ち揚げ中も営業を行うことで、御霊公園に人が留まり、花火大会会場付近の雑踏対策として有効であるとの考え方もあるため、観覧者の満足度、経済波及効果等を鑑みて判断すること。なお、安心安全が担保されることが大前提であり、関係機関とも十分協議することを求める。

また、実行委員会のスタッフから、入場ゲートにゲート番号と最後尾と書かれた看板があるとよいなどの改善点が挙げられていること、来場者アンケートでも「ゲートの入口が分かりにくかった」「有料観覧席のシートが濡れていた」「露店の営業時間を延長してほしい」など改善を求める意見があることから、それらの意見を十分検証することが必要である。

今回、花火大会会場の近隣商業施設から、店舗利用者以外の駐車場やトイレの使用などが生じたため、「会場付近に駐車場やトイレを確保してほしい」などの要望が市に寄せられた。市民だけではなく、事業者の理解も花火大会の開催に欠かせないため、それらの要望に対する配慮も必要である。

さらには、安心安全な花火大会の開催のため、降雨を含む様々な気象条件等の突発事象に対応する体制を関係機関の協力を得て構築することも求める。

(7) 仮に今後も花火大会が開催されるとした場合、どのような形であるべきか。

第4回会議及び第5回会議において、以下のとおり、仮に今後も花火大会が開催されるとした場合のあり方について議論するとともに、それを踏まえて検討項目ごとに必要な対応を協議し、21ページ以降のとおり、提案を行うことにした。

ア 花火大会の規模について

規模については、主催者が関係機関と協議を行い、安心安全を確保できる範囲において決定すべきであるとの意見が大勢を占めた。また、具体的な打ち揚げ発数については、事故が発生した平成25年のドッコイセ福知山花火大会の6,000発を超えるべきではないとの意見があった。

現地検証において、「C」評価になった項目の改善は当然のこととして、「B」評価であってもさらなる安全対策への取組みの検討、実施を求める。関係機関と十分な調整を行い、安心安全が確保されるのであれば、段階的に規模を今年と同数か、または拡大することを容認するというのが検証会議の意見である。

イ 福知山市の関与について

市は今回の花火大会に「市の考え方」に示す要件等が満たされると判断し、後援承認を行ったうえで、警察や消防等の関係機関との事故防止対策等にかかる事前協議に出席し、必要な調整を行うなどの対応を行った。また、市民に対して、花火大会の事故防止対策等への協力を呼びかけるなど、安全対策に関与した。関係法令を遵守し、また各関係機関と調整を図るうえで、市の関わりが花火大会の開催にあたって必要不可欠なものであることは言うまでもない。

委員からは、市の関与について、「検証会議で検討するというよりも、今後どのように関わるかは市や実行委員会、関係機関が検討すべき」、「実行委員会が組織の運営をしやすいような形で考えてもよい」などの意見が出された。

また、検証会議自体のあり方については、「検証会議を設置しない場合は、それに代わる機関が必要になる。主催者において検証ができる体制ができれば、従来の検証会議は設置しなくてもよい」、「仮に市が共催するのであれば、市や関係機関が中心となり検証を行うべきであるため、第三者機関の検証会議は必要なくなる」、「C評価があったため、あと1年は検証会議の設置が必要」など、様々な意見が出された。

それらの意見を踏まえて、21ページの「市の関わり方」の項目において、検証会議の提案をまとめた。

ウ 安全対策等について

議論の経過（６）では、「昨年よりも規模を拡大し、降雨等の影響で開始時間が遅れたが、事故や大きな混乱もなく花火大会が終了したことは評価できる。ただし、気象条件の変化等の突発事象への対策など、改善を要する点もある」と結論付けている。現地検証結果において、委員から改善点が指摘されているほか、実行委員会のスタッフの振り返りや来場者アンケートにおいても、昨年に引き続き、有料観覧席や露店等について改善を求める意見がある。また、近隣の商業施設から、駐車場やトイレの確保、観覧者に対するマナー向上の呼びかけなどの要望があった。

実行委員会は「市の考え方」で示している要件等を確実に履行していた。露店については、昨年の反省を踏まえ、「御霊公園の周囲にコの字型に露店を配置することで、列ができてスペースが十分に確保できており適切だった」、「露店を御霊公園と城下通りの第２会場に設置したことで来場者の分散を促し、混雑解消のために一定効果があった」などの意見が出された。一方で、委員からは「第２会場のスペースに対して５店舗は多かった」という意見が出されたため、混雑状況を踏まえ露店数や配置方法について、関係機関と十分に協議することを求める。広小路通りから堤防天端に向かう交差点での雑踏状況については、「城下通りの片側を歩行者天国に変更したことで、昨年より交差点の混雑が減ったように見えた」との意見が出された。

その他、路上での喫煙など、昨年と異なる観客層が観覧していたのではという指摘があり、マナーが悪かったという評価もある。このため、来場者に対するマナー向上の呼びかけ・指導の強化は必要になってくる。一方、雨が降る悪条件ではあったが、「その場の状況に応じたアナウンスであった」、「スタッフによる来場者の誘導は適切であった」など、評価する点もあった。

加えて、第６回会議において、福知山警察署から主に以下の見解が示された。

- ・花火の打ち揚げ開始時間が遅れた原因は降雨の影響だけではなく、打ち揚げ前に広小路通りで福知山踊りの披露を行っていたことや露店の営業を打ち揚げ時間になっても続けていたことも原因と考えられる。
- ・安全を優先し、打ち揚げ時間を遅らせることは考えられるが、警備計画等に変更があると雑踏事故の危険性が高まるため、道路使用許可等の範囲内で対応する必要がある。
- ・開始直前の入場ゲートに長蛇の列ができる状況があったことから、ブラックライトインクスタンプを利用する等、よりスムーズな入場方法について検討する必要がある。
- ・打ち揚げ時間等の変更は、主催者だけではなく、消防、警察等の関係機関と協議して決定すべきである。

以上の意見交換を行うなかで、①花火大会の規模について、②市の関わり方について（検証会議の設置を含む）、③有料観覧席や堤防天端のチケット所有者以外の立入りについて、④露店について、⑤気象条件等の突発事象に対応する体制について、⑥その他（駐車場・駐輪場、ゴミ箱、喫煙所、トイレ、マナー等）について、の6項目について提案を行うことにした。

3 提案内容

（１）花火大会の規模について

提案１－１：検証会議が挙げた課題のほか、実行委員会の事業報告書や来場者アンケートから明らかになった課題を十分検証し、関係機関と調整を図ること。

提案１－２：関係機関と調整が図られ、安心安全な花火大会の開催が確保されるのであれば、現状維持か規模を拡大してもよいと考える。ただし、来年の打ち揚げ発数については、平成25年以前のドッコイセ福知山花火大会の発数以下とすることが望ましい。

主催者に対して、主に以下のような対応を求める

- ① 検証会議等が挙げた課題を十分検証し、関係機関と調整を図ること
- ② 安心安全な花火大会の開催が前提で、これを実現させるために、実行委員会が安心安全を担保できる体制を整え、主催者、市、関係機関で協議し、規模（発数や時間等）を決定すること
- ③ 段階的に規模を拡大する場合であっても、来年の花火大会の打ち揚げ発数は平成25年以前のドッコイセ福知山花火大会の発数（6,000発）を上回らないようにすることが望ましい
- ④ 規模を拡大する場合は、観覧者のさらなる増加が見込まれるので、関係機関と調整し雑踏対策を十分に行うこと
- ⑤ 事業報告書や来場者アンケートから安心安全に関する記述を抽出して、分析し、安全な運営に役立てること

（２）市の関わり方について（検証会議の設置を含む）

提案２－１：市の関わり方（後援、共催など）については、市、主催者、関係機関で協議して決定すること。

提案２－２：安心安全に開催できていたかの検証は必ず行うこと。検証会議のあり方については、市の関わり方を踏まえて検討すること。

市は、主に以下のような対応を行うこと

- ① 市の関わり方については、安心安全な花火大会の開催を最優先とし、主催者の意見も踏まえて、消防や警察、国交省、京都府の各関係機関と十分な協議を行い、決定すること
- ② 検証は必ず行うこと。検証会議のあり方については、現状の検証会議の継続、市や関係機関を中心とした検証など、様々な形が考えられるため、市の関わり方を踏まえて検討すること

(3) 有料観覧席や堤防天端のチケット所有者以外の立ち入りについて

提案３－１：雑踏対策等の観点から有料観覧席は継続するべきである。

提案３－２：チケット所有者以外の堤防天端への立ち入り制限を徹底すること。

主催者に対して、主に以下のような対応を求める

- ① 事前に来場者数が予測できるなど、雑踏対策等の観点から有料観覧席を設けることは有効な対策であることから、継続するべきである
- ② チケット所有者以外の堤防天端への立ち入り制限を徹底すること
- ③ 来場者や実行委員会のスタッフ、警察からも、有料観覧席やチケット確認等について改善を求める意見があったことから、その内容を十分検証し、スタッフの増員やゲートの表示方法の見直しなど、必要な対応を行うこと
- ④ 堤防天端沿いの住民に理解を求めること

(4) 露店について

提案４－１：関係機関と協議を行い、安全対策や雑踏対策を徹底したうえで、露店の配置、出店数、営業時間などを設定すること。

提案４－２：検証会議や来場者アンケートの意見を十分検証し、必要な対策を講じること。

主催者に対して、主に以下のような対応を求める

- ① 事前・事後指導を確実に実施するため、引き続き、出店は市内事業者に限定すること
- ② 取り扱う火気の種類は、安全対策等を踏まえて、関係機関と協議し決定すること
- ③ 露店の出店場所や出店数、配置方法等は、雑踏対策等を踏まえて、関係機関と協議し決定すること
- ④ 露店の営業時間は、花火大会会場全体の雑踏対策等を踏まえて、関係機関と協議し決定すること

- ⑤ 露店出店者に対して、消防が実施する屋外イベント等防火安全講習の受講を義務づけること
- ⑥ 花火大会当日に、屋外イベント等防火安全講習の内容が適切に運用されているかを確認する体制を構築すること
- ⑦ その他、衛生対策（感染症、食中毒など）も含めて、考え得る対策を検討し、安全対策や雑踏対策を徹底すること

（５）気象条件等の突発事象に対応する体制について

提案５－１：客観的な中止の判断基準を設定すること。

提案５－２：関係機関の協力を得て、自然災害等の突発事象に対応する体制の構築やマニュアルを作成すること。

主催者に対して、主に以下のような対応を求める

- ① 客観的な中止の判断基準（プロセスや決定者等）を明確にすること
- ② 関係者各自の役割や責任が明確に記載されていること
- ③ 自然災害等の突発事象に対応する体制の構築やマニュアル作成については、実行委員会のみで作成するのではなく、関係機関の協力を得て作成すること
- ④ 実施計画を変更する場合は、関係機関と協議を行い、決定すること

（６）その他（駐車場・駐輪場、ゴミ箱、喫煙所、トイレ、マナー等）について

提案６－１：マナーの徹底を来場者に呼びかけること。

提案６－２：駐車場やトイレの確保などに関する商業施設からの要望に対して、その内容を十分検証し、関係機関と協議のうえ必要な対策を講じること。

主催者に対して、主に以下のような対応を求める

- ① 安心安全な花火大会の開催のために、マナーの徹底を様々な媒体を活用して呼びかけること
- ② 商業施設から駐車場や駐輪場、ゴミ箱、トイレ等に対して改善を求める要望があったことを受けて、他の花火大会の対策も参考にするなど、関係機関と協議のうえ必要な対策を講じること。

お わ り に

検証会議では、昨年よりも規模を拡大して開催された花火大会に関して、福知山市の対応、主催者である実行委員会の花火大会の運営や事故防止対策等が、「検証会議」の提案を受けて策定された「市の考え方」に示す条件を満たし、十分に機能していたか、改善すべき点はないかなどについて、現地検証や実行委員会の確認事項等を踏まえて協議を行った。当協議に基づき、仮に今後も花火大会が開催されるとした場合のあり方について、6 項目の提案を行った。

花火大会は、昨年から打ち揚げ時間や打ち揚げ発数、有料観覧席、露店数等を拡大し、延べ人数で 20,000 人の観覧者を数えたが、事故や大きな混乱もなく終了した。昨年の花火大会の課題を受け、関係機関と十分な協議や調整を行ったうえで、城下通りの片側車線を観覧者用に開放し、広小路通りの雑踏の解消を図るなど、安心安全な花火大会の運営のために各対策を講じたことは評価すべき点である。

しかし、規模の拡大に伴い観覧者が増加したことや直前の降雨等の影響により、チケットの確認に時間を要し、ゲートに長蛇の列が発生したため、打ち揚げ時間が予定よりも 13 分遅れることとなった。また、気象条件等による突発事象に対応する体制や中止の判断基準については課題があり、今後も花火大会が開催される場合は、関係機関の協力を得て、体制の構築や関係者各自の役割や責任が分かりやすいマニュアルの作成が必要である。

花火大会の開催にあたっては、関係法令を遵守し、また各関係機関と調整を図るうえで、市の関わりが必要不可欠なものであることは言うまでもない。市の関与の方法としては、「後援」、「共催」などの形が考えられるが、来年以降の関与については、主催者の意見も踏まえて、関係機関等で協議して決定することを求める。

また、安心安全に開催できていたかの検証は必ず行うことを求める。検証会議のあり方については、現状の検証会議の継続、市や関係機関を中心とした検証など、様々な形が考えられるため、市の関わりを踏まえて検討することが望ましい。

本報告の 6 項目の要件を満たせば、今後も安心安全な花火大会の開催が担保されるものではない。安心安全な花火大会を開催することが大前提であり、今年の花火大会で明らかになった課題の改善は当然のこととして、引き続き、安全確保体制の強化、万一事故が起こった場合の緊急体制・補償体制の確保を強く求める。

令和 7 年 7 月の第 1 回会議から 5 ヶ月をかけ、専門家、地域、商工関係者、市民の代表が、公開の場での会議や現地検証等を踏まえて、本報告書をまとめることができた。本報告書の市長への提出を以て、「検証会議」の役目を終えることになるが、本報告書が福知山市における花火大会のさらなる安心安全の確保と適切な運営管理の推進に寄与し、将来にわたる持続可能な開催の実現に資することを期待する。